第３次南アルプス市総合計画
施策マネジメントシート

作成日：令和8年 7月15日
更新日：

政策№	2	政策名	「ともに生き支え合う、健康と幸せのまち」の実現	施策主管課	介護福祉課
施策№	9	施策名	高齢者福祉の充実	施策主管課長名	樋泉 孝司
施策関連課名					

1 施策の目的と指標

意図（この施策によって対象をどう変えるのか）
年齢を重ねても、その人らしく活躍しながら、支えあいのなかで安心して暮らすことができる

	成果指標（意図の達成度を表す指標）	単位
1	「南アルプス市では、高齢者の介護・福祉施設のサービスが受けやすい」と思う市民の評価	―
2	老後も安心して暮らせると思う市民の割合	%
3	認知症サポーター養成講座を受講した人数（累計）	人

成果指標の測定方法 どのように実績値を把握するか	
1	市民アンケートにおける満足度（Well-being）指標
2	市民アンケートにおいて肯定的回答（あてはまる・ややあてはまる）をした市民の割合
3	認知症サポーター養成講座を受講した人数を把握（累計）

2 指標等の推移

		指標名	単位	数値区分	前期基本計画 R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	後期基本計画 R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度
成果指標	1	「南アルプス市では、高齢者の介護・福祉施設のサービスが受けやすい」と思う市民の評価	―	目標値	3.4	3.4	3.4	3.4	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.6
				実績値	3.4									
	2	老後も安心して暮らせると思う市民の割合	%	目標値	42.7	43.2	43.7	44.2	44.7	45.2	45.7	46.2	46.7	47.2
				実績値	44.5									
	3	認知症サポーター養成講座を受講した人数（累計）	人	目標値	14,107	14,857	15,607	16,357	17,107	17,857	18,607	19,357	20,107	20,857
				実績値	14,245									
				目標値										
				実績値										

3 施策の役割分担

市民の役割	事業者の役割
• 高齢者自身が地域の活動に参加するなど、社会参加を通じて介護予防に取り組みます。 • 支えあいの意識のもと、さまざまな地域課題に対し、地域が一丸となって取り組みます。 • 認知症に対して正しい知識を持ち、認知症高齢者やその家族のためにできることを実践します。	• 介護サービスを必要とする方に、必要なサービスを提供します。 • 疾病の重症化予防や健康教室での指導を通して、高齢者の健康維持を推進します。 • 高齢者が社会参加できるよう、雇用機会を提供します。 • 高齢者を含む多様な世代が楽しめる場を提供します。

4 施策の現状と課題および状況変化・住民意見等

※現状と課題および基本計画策定時点からの状況変化・住民意見等を記載しています。

施策の現状と課題	施策を取り巻く状況変化 関係者からの意見・要望
高齢者に対する介護予防、地域におけるささえあいの体制強化、地域包括ケアシステムを推進しているが、地域の高齢化が急速に進んでおり、ひとり世帯や認知症の高齢者が増加している。担い手の確保とともに、地域で暮らすための体制整備の強化が必要となっている。	急激な物価高騰が高齢者世帯に大きな影響を与えている。R7.9月議会には「低所得高齢者向けのエアコン設置助成」について、R8.6月議会において「高齢者への支援」について求める質問があった。また、担い手強化として「ボランティアポイント制度」の強化について、R7.9月議会において議員より質問があった。

5 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分		7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
関連事業本数		35	35			
関連事業予算額（単位：千円）		1,172,336	1,237,740			
（予算額の内訳）	国庫支出金	47,555	47,693			
	県支出金	29,207	30,886			
	地方債	0	0			
	その他	49,747	32,807			
	一般財源	1,045,827	1,126,354			

６ 施策の成果水準とその背景

目標達成度 （目標値との比較）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ 目標より高い実績値だった ☑ 目標どおりの実績値だった □ 目標より低い実績値だった	成果指標１は目標値と同値の3.4となった。成果指標２は44.5%となり、目標値を1.8ポイント上回り、達成率は104.2%であった。また、成果指標３については高いレベルで事業（認知症サポーター養成）を継続実施した結果、目標値を138人上回った。成果指標１が目標値を達成するとともに、成果指標２及び３においても目標値を若干上回ったことから、目標達成度は「目標どおり」と評価した。
時系列比較 （どのように変化してきたか）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
□ 成果がかなり向上した ☑ 成果は変わらない（横ばい状態） □ 成果がかなり低下した	成果指標１は基準年度と同値であり変化はない。成果指標２は、第２次市総合計画における10年間の同指標と比較して最も高い結果であった（過去10年間推移：35.3%～42.5%、平均値40.3%）。年度ごとの変動はあるものの、本市の高齢者福祉施策の推進による効果や、市民の認識の高まりが反映されたものと考えられる。成果指標３は累計値であり、前年から781人増であったが、単年度の増加数は令和６年度と比較し76人減少した。以上を踏まえ、時系列評価は「横ばい」と評価した。
他団体比較 （近隣他市、県・国との比較など）	背景と要因等（根拠となる実績値・判断基準等）
☑ かなり高い成果水準である □ ほぼ同水準である □ かなり低い成果水準である	成果指標１及び２については、国・県や他自治体との直接的な比較は困難であるものの、数値状況の分析や厚生労働省におけるインセンティブ交付金算定のための評価結果（全国自治体で12位）を勘案すると、高い水準にあるものと考えられる。一方、成果指標３については、人口に占める認知症サポーター数の割合が全国平均12.93%、県平均17.74%に対し、本市は20.30%と大幅に上回っている。これらの状況を踏まえ、他団体比較による評価は「高い成果水準」と評価した。

７ 施策の方向性

• 健康・長寿のまちづくりを実現するため、高齢者が地域の支えあいの中で、その人らしく安心して暮らし続けられる仕組みづくりを推進します。
• 高齢者が可能な限り住み慣れた地域で、自立した日常生活を送ることができるよう、地域包括ケアシステム（生活支援、介護予防、医療・介護連携、地域支えあい協議体）のさらなる構築を推進します。
• 認知症の正しい理解の普及・啓発に努め、認知症高齢者にやさしい地域づくりを推進します。
• 疾病の重症化予防と生活機能の維持の両面で高齢者を支援します。

８ 施策の目標達成のための基本事業の今年度の取組（事務事業）状況・今後の課題・今後の方針

重点事業		今年度の取り組み状況	今後の課題	今後の方針
1	地域包括ケアシステムの構築	・委託期間終了に伴う北部地域包括支援センターの次期受託事業者の選定、再委託に向けた手続を進める。 ・来年度からの「高齢者いきいきプラン」策定に併せ、本市の総合事業等の見直しを実施する。	・北部包括の委託について現状分析及び課題整理を行い、より効果的・効率的な運営を検討する必要がある。 ・地域包括ケアシステムの持続的運用に向けた総合事業等の見直しには関係者の理解と協力を得る必要がある。	・地域包括支援センター運営協議会への諮問・答申、現事業者との協議を通じて、委託内容を確定する。 ・外部アドバイザーを活用し、関係者との協議の場を継続的に設け理解を得る中で、事業の見直し内容を次年度事業に反映する。
2	認知症にやさしい地域づくりの推進	・「高齢者いきいきプラン」に、本市の認知症施策の基本的な方向性や取組を示す「認知症施策推進計画」を位置付ける。 ・地域における認知症への理解をさらに深めるため、認知症サポーター養成の対象者拡大を進める。	・今後、認知症の人の増加が見込まれる中、認知症に対する地域の理解を一層深めるとともに、地域全体で支え合う体制の強化が重要な課題となっている。	・「高齢者いきいきプラン」に位置付ける認知症施策推進計画を着実に推進する。 ・認知症サポーター養成講座については、新たに市内事業所での実施を進め、認知症に対する地域の理解促進を図る。
3	高齢者の生きがいづくりと社会参加の促進	・ボランティア・ポイント制度の拡充に向けた検討を行う。 ・協議体活動や住民主体による高齢者支援活動（通所型サービスB、訪問型サービスD）について広く周知を行い、活動への参画を促進する。	・参加しやすい環境整備を進めるとともに、多様な経験や能力を生かし活躍できる場の創出を図る必要がある。 ・地域活動の担い手の確保に向け、参加者の裾野を広げるための周知強化が必要である。	・ボランティア・ポイント制度について、ポイント単価の見直しや対象活動の拡大に向けた制度設計を行い、次年度から実施する。 ・住民主体サービス等に関心のある市民や団体に対し個別の働きかけを行い、新たな担い手の確保を図る。